

小型船舶への転換検討チェック項目

- ☒ 燃料費、修繕費などの高騰により経営が厳しい。一刻も早く経営改善をしたい。
- ☒ 海域が穏やかで、小型船舶でも一定の就航率が確保できそう。
- ☒ 船員確保が難しい。特に機関士など有資格者が集まらない。
- ☒ 島民・利用者の減少が進み、乗船率が低い。

↓ 全てに☑が入る場合

小型船舶への転換検討の流れ

九州運輸局や地元自治体等への事前相談

補助航路の場合

補助航路以外の場合

離島航路確保維持改善協議会での検討・合意形成

※離島航路の確保を図り、併せて地域の実情に即した輸送サービスの実現に必要な事項を協議することを目的とした地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱（平成23年3月30日国総計第97号、国鉄財第368号、国鉄業102号、国自旅第240号、国海内第149号、国空環第103号）第2条第1項第1号に規定する協議会です。

地元や関係機関との協議・合意形成

補助金交付に向けた事前協議

造船所等との契約・建造へ

離島航路の現状を踏まえた

小型船舶への転換に向けた
検討のポイント

航路事業者・自治体向け

お問い合わせ

公益財団法人 九州運輸振興センター
〒812-0013 福岡市博多区博多駅東3丁目10番17号
TEL 092-451-0469 FAX 092-451-0474

本リーフレットは「離島航路の現状を踏まえた小型船舶への移行・転換の効果や課題に関する調査研究（令和6年度）」に基づき作成したものです。別に「地元住民向けリーフレット」があります。

公益財団法人 九州運輸振興センター

小型船舶への転換を考える。

- 燃料費や人件費、修繕費の高騰などで増大した赤字をできるだけ減らしたい。
- 船員は欲しいが機関士などの有資格者の確保が難しい。（航路事業者）
- 厳しい財政状況の中、補助金をできるだけ減らしたい。（自治体）

こんな悩みをお持ちなら、**小型船舶への転換**が有効かもしれません。

小型船舶とは20トン未満の船舶です。



経営にとって

👍 **メリット** ⚠️ **検討のポイント**

船員

- 👍 **小型船舶操縦士**の資格で運航できる。船員の採用がしやすい。
- 👍 **船員数**は状況に応じ、**柔軟な対応**が可能。
- ⚠️ 機関部の突発的な故障等に備えた体制が必要。

修繕費・検査

- 👍 **定期的な検査の費用が軽減**される。
※事例では就航後数年は年間100万円程度、5年後に600～700万円程度、10年後に1000万円程度など大型船舶に比べ安価
- 👍 **ドック期間が短い**。（→ドックダイヤの期間が短い）
- ⚠️ 突発的な故障などに備えた日々の対応が必要。

燃料費

- 👍 船体が小さい分、条件次第では**燃料消費量が減少**。（燃料費削減へ）
- ⚠️ 主機の馬力や運航時間の変化がない場合は燃料費の大きな削減はない。

旅客定員・安全対策

- 👍 立席も含め、設計次第で**50～100人程度**は確保可能。
- ⚠️ **安全対策が強化**。航路の特性に応じた対策が必要。
- ⚠️ 初任の船長等の乗組員について、操船に関する**教育訓練の実施を義務付け**。

運航・オペレーション

- 👍 船体が小さい分、港内での**取り回し**がしやすい。
- 👍 船体が軽く**速力が向上**。船員の労務改善も可能。
※事例では平均約20%UP
- ⚠️ 船体が小さく貨物スペースが狭くなる場合も。積入れに工夫が必要。

建造費・造船所

- 👍 建造費が大型船舶に比べ**安価**。
※近年の建造事例では約2.8億円
- ⚠️ 小型船舶の建造ができる造船所が少ない。早めの相談が必要。

九州管内における小型船舶への転換事例（国庫補助航路）

嵯峨島航路 (長崎県五島市) 平成23(2011)年	寺島航路 (長崎県佐世保市) 平成25(2013)年	神集島航路 (佐賀県唐津市) 平成27(2015)年	六連島航路 (山口県下関市) 令和元(2019)年	黄島航路 (長崎県五島市) 令和4(2022)年	馬渡島航路 (佐賀県唐津市) 令和6(2024)年
35t	29t	58t	48t	42t	57t
↓	↓	↓	↓	↓	↓
19t	19t	19t	19t	19t	19t

※航路名は省略表記を使用しています。 写真提供：(旧船) 運航事業者・(株) 沖新船舶工業、(新船) 九州旅客船協会連合会



お客様・地元にとって

就航率

- 👍 運航基準が変わらない限り、**就航率は大きく変わらない**ことが多い。
- ⚠️ 船がやや小さくなるため長さの確保や時間化対策の設備設置など、**時化に強い設計**が必要。

航海速力

- 👍 船体が軽くなることで**速力が向上**する場合がある。この場合、**所要時間が短縮**される。

乗り心地

- 👍 船体が小さくても**バリアフリー対応**。車いす対応トイレも設置ができる。
- ⚠️ 大型船舶に比べると**音や揺れが大きくなる**場合あり。窓からの景色も水面に近くなる。

お客様・地元にとって



自治体にとって

安全性

- 👍 **安全対策が強化**されており、安全性が高い。
- ⚠️ 客席とバランスのとれた貨物スペースの確保が必要。

補助金

- 👍 修繕費などの削減により運航赤字が減少し、**補助金額を削減**できる可能性が高い。

地元合意

- ⚠️ 小型船舶への転換にあたっては**地元の理解**が不可欠。
- ⚠️ 利用者の減少や運航コストの高騰などを**丁寧に説明**することが重要。

実際の小型船舶の写真（長崎県五島市 黄島航路）

